

授業科目

教育相談

【担当教員名】 山崎 史恵	対象学年	3	対象学科	林・栄・看
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
 学校現場でみられる児童・生徒の種々の問題（不登校やいじめ、学業不振、発達障害など）について解説し、学校における教育相談の意義や進め方、技法についての基本的な知識を理解するとともに、できるだけ具体的な事例をもとにその問題と対応について検討しあう。特に、教師の役割や、養護教諭およびスクールカウンセラーとの連携についても理解を深める。

- 【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】
1. 教育相談の領域と独自性、効用、および限界について学ぶ。
 2. 児童・生徒の発達段階に応じた教育相談活動を行うための基礎知識を得る。
 3. 教育相談に必要な基本的なカウンセリングの理論・技法を身につける。
 4. 具体的な教育相談の事例に対応する実践力を養う。
 5. 保護者に対して教育相談を行う際の基本的態度と留意点を学ぶ。
 6. 他の専門家と連携を取る際の基本的態度と留意点を学ぶ。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション：生徒指導と教育相談	1	講義
2	教育相談の枠組・構造・倫理	1	講義
3	児童期の教育相談の特徴と役割	1	講義
4	思春期・青年期の教育相談の特徴と役割	2	講義
5	養護学校等における教育相談の特徴と役割	2	講義
6	児童・生徒理解の方法	2	講義
7	教育相談における基本的態度 (1)	3	講義・ロールプレイ・小レポート
8	" (2)	3	講義・ロールプレイ・小レポート
9	教育相談の実際 (1)	4	講義・ロールプレイ・小レポート
10	" (2)	4	講義・ロールプレイ・小レポート
11	" (3)	4	講義・ロールプレイ・小レポート
12	" (4)	4	講義・ロールプレイ・小レポート
13	保護者との相談活動	5	講義・ロールプレイ・小レポート
14	スクールカウンセラーや他機関（教育研究機関、相談機関、医療機関）との連携	6	講義
15	期末試験		期末試験

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	特になし (適宜、資料を配付)			
参考書	学校教育相談 (MINERVA教職講座10)、一丸藤太郎・菅野信夫(編)、ミネルヴァ書房、2002年、2,310円(税込)			
その他の資料	学校カウンセリング、氏原寛・谷口正己、東山弘子(編) ミネルヴァ書房、1991年、1,890円(税込)			

【評価方法】 出席25%、レポート25%、期末試験50%	【履修上の留意点】
---------------------------------	-----------

看護学科専門